

秩父札所について

秩父札所三十四ヶ所観音霊場は文暦元年(1234)甲午三月十八日開創と伝えられ、長享二年(1488)の秩父札所番付(長享番付 札所三十二番蔵)が実在することから、室町時代後期には秩父札所が定着していたと考えられます。

江戸時代に入ってから、多くの江戸庶民の観音信仰巡礼の聖地として賑いをみせました。今日もその当時の趣きを残しつつ、一番四萬部寺から三十四番水潜寺まで静寂な山村と美しい自然の風光を背景した一巡約100km程の巡礼道です。

この間、ある時は谷をわたり、山路をたどり、野づらを横切つての巡拝は秩父札所ならではのものです。

西国三十三ヶ所、坂東三十三ヶ所とともに日本百番観音に数えられています。

自然を大いに感じていただき、観音様とのご縁をお結びください。・・・ネット



第一回 2017/11/23



第三回 2019/11/6

期 日 2017.11.20(月)～22(水) 通算歩行日数＝1日～3日
参加者 後藤隆徳(長泉町・70)、高岡八千代(御殿場市・80)、渡邊典子(三島市・62)、土屋弥生(長泉町・75) 田内保子(伊豆の国市・75) 合谷守明(裾野市・61)、鈴木新平(富士市・76)、鈴木綾子(富士市・74)、星 千代(伊東市・72)、松永 優(函南町・71)、サポーター・加藤秀子(富士市・68)、一般・栗原＝12名

1日目 11月20日(月・晴) 歩行日数＝1日

三島・イトヨーカ堂6:00－東名－関越道－秩父市－秩父鉄道・和銅黒谷駅着
9:50－発9:59－聖神社10:07－和銅神社10:28－一番・四萬部寺11:29－昼食－二番・真福寺13:44－三番・常良寺14:47－四番・金昌寺15:37－バス－民宿「すぎの子」16:45(泊)

6時長泉発。関越道経由で秩父鉄道・和銅黒谷駅着。駅ホームには、日本通貨発祥の地の「和同開珎」(わどうかいちん)の大きなモニュメントがあった。

丁度、貨物が入って来た。貨物は「無蓋車」(むがいしゃ)と呼ばれるもので、屋根がない貨物。秩父産出のセメント原料の石灰岩を運んでいた。



和同開珎モニュメント

正面には、その石灰岩産地の武甲山が聳えていた。山の三分の二ほどに大きな掘削道があり、無残な掘削痕跡が残されていた。

聖神社を経由して、和銅神社着。昔の銅の露天掘り跡があった。裏道から、札所一番(秩父の場合は、札所一番と表記)の四萬部寺着。

寺向かいに「旅籠・一番」という、築100年のイイ雰囲気(きんぎょ)の宿があった。訪ねて少し話をした。

皆さんは、寺でご朱印帳など、グッズを購入。ここで「発心」の記念写真撮影。昼食はバス中で摂った。



無蓋車



武甲山



札所一番・四萬部寺



旅籠・一番



札所二番・真福寺



札所三番・常良寺



札所四番・金昌寺

午後の開始。二番・真福寺は山の上。昼食後でキツかった。途中で自転車巡礼の若い女子に抜かれた。自転車は電動だった。駅で借りることが出来る。東京から日帰りの様だ。

境内に冬桜。無住職ながら、雰囲気のある寺だった。坂を下って三番・常泉寺。本堂の竜の彫り物が立派。四番は金昌寺。石仏が素晴らしい。山門に大きなワラジ。

そういえば、この地のB級グルメは、「ワラジカツ丼」だった。翌日、バスドライバーが食べたが、食べきれなかったようだ。

本堂に乳飲み子を抱えた慈母観音があった。なかなか見ごたえのある観音様だった。「マリア観音」とも呼ばれているようだ。



マリア観音





民宿・すぎの子

他に大きな観音様があった。3mくらいのもので、建屋の丸い窓越しに丁度、お顔が見られる設計だった。ほか、お酒の好きの石仏は、片手に徳利、頭に盃を被っていた。

一日目は、ここで終了。秩父中心街は安い宿がなかった。バスで15分程移動して宿に到着。元庄屋を改築した民宿「すぎの子」。



茅ぶきの犬小屋（笑い）



大ババさま



大演説会！！??

建屋は茅ぶきで雰囲気はなかなか良い。古いだけに、音・寒気（障子の外は廊下で半分、雨戸がない）ここも夏は学生さんが中心の宿とのこと。囲炉裏もあった。

宿は、オババと息子、その嫁の三人で賄っていた。売りは何ととってもオババ。

年齢は77歳。能弁で野菜の調理・加工の知識は最上級だった。従って、喋り出したら止まらなく、延々のご教授いただいた。

女性軍は大いに喜んだ。しかし、余りにレシピが多く、覚えきれない。後日、書き物を送って下さいと、名刺を置いて来た。

梅干を350g・500円で売っていた。購入したが、サイコーの味でした。今時、このような方は、貴重な方ですね。

2日目 11月21日（火・快晴、朝は冷えた） 歩行日数＝2日

起床6：00－朝食7：30－バス発8：20－四番・金昌寺8：40－五番・語歌堂9：01－七番・法長寺9：48－六番・ト雲寺（ぼくうんじ）10：16－八番・西善寺10：52－九番・明智寺11：35－昼食－十番・大慈寺13：50－十一番・常楽寺14：36－十二番・野坂寺15：09－バス－民宿「すぎの子」16：30（泊）

民宿「すぎの子」の庭には、犬が一匹いた。見ればその犬小屋も立派な「茅ぶき」だった。恐らく日本一の犬小屋だろう。何と幸せな、ワンちゃんだろうか。顔を見ると、眼の上に黒い模様があって、何故か笑っているように見える。（笑い）

朝はモーレツに冷えた。男性が泊まった一階の部屋は、廊下があり、雨戸は半分しかない。従って部屋の障子は外の外気がモロに当たる。カーテンはあったが、隙間風がスースーだった。

庭の宿の車のフロントガラスはガジガジだった。この地は標高約300m。緯度も

三島・長泉より高い。降雪は少ないが内陸の冷え込みは、相当なモノ。しかも、東が山の為、朝日は遅かった。

バスで昨日最終の四番・金昌寺に戻る。綺麗で立派なトイレを使い出発。五番・語歌堂（ごかのどう）は小さく無住職。六番・ト雲寺は、少し山の上。周辺は紅葉が凄い。ここも大きくはない。サポーターがお経本を貰った。

七番・法長寺に向かう。バス巡礼の方が来た。白衣を着けていなかった。四国はバス巡礼でも、身なりはシッカリしている。先達のお経は、物凄く速かった。目の前、横瀬川の向こうに、大きな武甲山（1304m）が迫る。

武甲山は、いわずと知れた、石灰岩採掘の山。山の中央に大きな碎石道が出来て、山が分断されていた。早朝からガラガラ音が聞こえる。しかも、温泉の湯気みたいな、土埃が各所で上がっていた。

確かに石灰岩が無ければセメントは作れず、ビル・橋梁などは出来ない。しかし、自然破壊は著しい。秩父市に落ちる税金も大きいだろう。人間は絶対的に自然を利用して生きている。どの程度に塩梅をつけるか、要はバランスの問題である。七番・法長寺から八番・西善寺に向かう。

寺は武甲山の一角みたいな感じで、坂上にあった。境内入場は1000円の有料だった。ただし、ご朱印（3000円）をやる方は無料。四国・伊豆とか巡礼を各地で行っているが、入場有料（拝観料）は初めて。理由は不明。



札所八番・西善寺

この寺には、樹齢600年の「コミネカエデ」という、見事なカエデがある。

その維持費として入場料を取っているのかも。確かに、巡礼でなくカエデ見学のみで来る人も多い感じだった。それにしても、今まで見たことがない、見事なカエデだった。

坂を下り西武鉄道沿いに進む。下からカエデ見学風な巡礼着をつけていない方が、何人か上ってきた。丁度、電車が通過して行った。下り切って、九番・明智寺。小さい寺だった。昼食時間になったので、バス移動。街のファミレスで頂いた。

バスドライバーが、例の「ワラジかつ丼」を食べたと言った。大きくて食べるに大変だったそうだ。昼食を終え、午後の巡礼。明智寺から更に下り、十番・大慈寺。大きな寺ではなかった。

次の十一番・常楽寺へは、山道と下道があった。二名下道で他は山道。山道は自然道で良かった。途中、山中に大きな神社があった。

常楽寺も大きくはなかった。裏通り通過し、十二番・野坂寺着。今巡礼で一番立派な寺だった。裏道から来たので、長い参道を上れず残念。山門に木造の観音様が片膝でほほ笑んでいた。一般的に仏さまは性別がないという。しかし、この観音様は、どうみても女性に見える。ただ、正面の顔は微笑む優しい顔だが、後部は恐ろしい鬼の邪面だった。これは何の意味だろうか？



札所十二番・野坂寺

後ろにも、もう一体の木造の観音様。こちらにも乳房もあり、優しい笑みを浮かべていた。皆さんが撫でるようだ、全体的にテラテラ光っている。家に欲しい仏さまだ。

綺麗で大きな境内。この寺は本堂でお勤めをさせてくれる。木魚が十数個並んでい

た。ご本尊も黒い木造の観音様。これも素晴らしかった。



裏が鬼面の観音様

3日目 11月22日(水・快晴) 歩行日数=3日

十三番・慈眼寺 8:10—十四番・今宮坊一番・少林寺一十六番・西光寺 9:34
一十七番・定林寺一十八番・神門寺 10:47—帰静



札所十三番
慈眼寺



札所十六番・西光寺

第二回 秩父三十四カ所観音巡礼報告書

期 日 2018.11.6(火)～8(木)

参加者 後藤、高岡、渡邊典、田内、加藤、合谷、鈴木新、鈴木綾、星、松永＝10名

1日目 11月6日(火・雨) 通算歩行日数＝4日

三島・イトーヨーカ堂6:00－御殿場一塩山一雁坂トンネル一十八番・神門寺
 11:26－十九番・龍石寺 11:40－二十番・岩之上堂 12:53－二十一番・
 観音堂 13:11－二十二番・童子堂 13:25－二十三番・音楽堂 14:23－
 二十四番・法泉寺 16:10－巴川橋一民宿「美あさ」(泊) 17:15

昨年秋最終の法泉寺から出発。天気は雨～小雨。十八番から二十二番・童子堂は近い。童子堂には他のバスツアー20名がいた。観音堂は古いが立派。

次の二十三番・音楽寺は山の上。音楽に関係ある寺かと思ったが、必ずしもそうではなかった。ただ、音楽関係者がヒットを祈願してお参りするとネットにはあった。この日最後の法泉寺は、やや遠かった。道を間違え30分ロス。

ご朱印締め切りの16時が迫っていた。サポーターが飛ばし何とか間に合った。しかし、16時を過ぎて来た他の方もいて、一旦帰った係りは戻って来た。

この日の宿は「美あさ」。安価だが非常にいい宿だった。御主人の話では、最近大変なので、近い将来閉めたいといった。こんなイイ宿がなくなるのは残念。

2日目 11月7日(水・晴) 通算歩行日数＝5日

宿「美あさ」一二十五番・久昌寺 8:16－二十六番・円融寺 9:57－二十七番・
 大淵寺一二十八番・橋立堂 10:16－二十九番・長泉院一三十番・法雲寺一「浦
 山山荘」(泊)

宿「美あさ」の車で前日最終の巴川橋まで世間話をしながら送って貰う。92歳の母がいる。ポケではいないが、施設には絶対入る気持ちはないので対応が難しい。

また、男子子供が無く、後継ぎがないのでポチポチ、断捨離・周辺整理を考えてるなど。



「美あさ」



温かい御主人

物凄く丁寧な方で、出発する我々をいつまでも頭を下げて見送ってくれた。荒川の橋を渡る。深い溪谷で朝日の紅葉が素晴らしい。田舎道に入り、二十五番・久昌寺着境内に灌漑用の大きな池が広がる素敵な寺だった。池にはカモが数羽。



札所二十五番・久晶寺



札所二十六番・円融寺

山を下って再び荒川を渡り対岸に移り、二十六番・円融寺。続いて二十七番・大淵寺。次の二十八番・橋立堂は武甲山の登山口が近い。

観音堂の後ろは石灰岩の壁だった。受付の奥には、「県天然記念物の鍾乳洞」がある。入場料200円で潜る。天井が低く頭を数回打った。なかなか興味深い洞だった。

高台の感じの良い道を進めば二十九番・長泉寺。私が在住の町と同文字で、親しげな名称だが、「ちょうせんじ」と読む。観音堂には「秩父三千女（さんぜんめ）」の額がある。

読み方を寺坊主に聞いたが「分からない」だった（??!!）今日の宿は寺のすぐ近く。2名リタイヤで宿に向かった。



「秩父三千女」

・・・この板絵自体は古いものではなく、秩父の提灯屋のおかみさん、浅賀三千子さんが1988年から25年かけて描き、三十四箇所すべてに奉納されたものです。額の下には「三千女」の銘が入っている・・・ネット

今日の予定はここまでだったが時間があるので歩を進める。高台の道で眼下に秩父鉄道が伸びる。帰りはこれに乗る予定。未知の土地で電車に乗るのは楽しい。



秩父鉄道

3日目 11月8日(木・晴) 通算歩行日数=6日

宿「美あさ」一二十五番・久昌寺8:16一二十六番・円融寺9:57一二十七番・大淵寺一二十八番・橋立堂10:16一二十九番・長泉院一三十番・法雲寺一小森橋11:28一帰静



札所三十番・法雲寺



法雲寺



三峰口駅



三峰駅地先



下野沢地先

秩父三十四カ所観音巡礼報告書（第3回・満願成就、結願）

期 日 2019年11月5日(火)～8日(金)

参加者 後藤、高岡、渡邊典、合谷、鈴木新、鈴木綾、星、松永、土屋、サポーター・加藤、
一般＝栗原＝11名

1日目 11月5日(火・晴) 歩行日数＝7日 距離＝約18km

三島・イトーヨーカ堂6：00－御殿場－塩山－雁坂トンネル－前回最終・両神＝
小森橋10：11－途中昼食－三十一番・観音院12：48－小鹿野－小判沢－大
日峠入口15：40－小鹿野町「梁山泊」(泊)

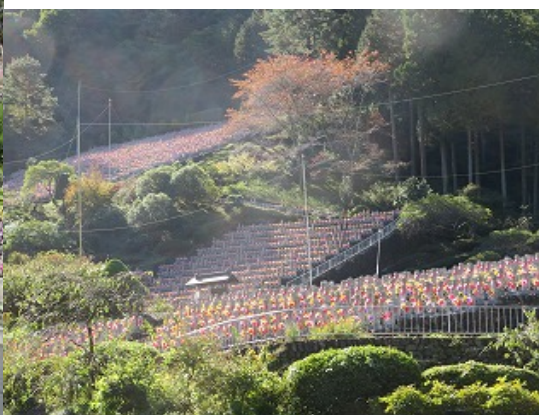
昨年秋最終地、両神・小森橋から出発。天気は良い。紅葉はちょっと早い。郵便局の角を左折すると、地元のオジサンが道を教えてくれた。

「本来、ここにバイパス道があるが、先日の19号台風で橋が流されたから、本道を行って下さい」とのこと。小森川支流の橋を渡る。確かに台風の痕跡が凄かった。板戸から峠を越えて上飯田に到着。

昼食時間なので、田んぼの畔に座って昼食。天気が良く暖かくノンビリした。



昼食



地蔵寺

午後は、ちょっとした峠を越えて、上飯田に出た。

左折して観音寺に向かう。途中に地蔵寺があった。この寺は水子供養で有名。境内・山の斜面に一万本以上の風車が回っていた。

更に上ると三十一番・観音寺着。山門に4mの石造りの仁王が睥睨していた。

石造りでは、日本一という。先は石段が続く。般若心経の276字+回向文20字=296段といわれる。上り切れば本堂。左後方に落差60mの「聖浄の滝」が落ちていた。その昔、修験者が滝行をしたという。

滝の続きの岩肌には、弘法大師が刻んだ「鷲窟磨崖仏（しゅうくつまがいぶつ）」があった。この辺りは太古は海で、「礫質砂岩（れきしつさがん）」で刻みやすいようだ。



石仁王像



本堂と滝





鶯窟磨崖仏



札所三十一番・観音寺

今回最初のお勤めを済ませ下山。階段の途中に年配の方がベンチで休んでいた。小鹿野の町を下る。宿場町だったか、静かで落ち着いた雰囲気。お接待の店があって

コーヒーが飲めたが、靴を脱がないと上がれないので止めた。

途中、地元のオジサンが道を教えてくれた。話すと、今日の宿「梁山泊」と親戚といった。

三島という信号を右折して小森川を渡る。大きな川で台風の痕跡が凄まじかった。この橋が流れないで良かった。橋が流れたら三十二番・法性寺に山道で行けなかった。小判沢集落を上り、明日の大日峠登山口を確認して本日は終了。バスで宿に向かった。

2日目 11月6日(水・晴) 歩行日数=8日 距離=約22km

起床5:00-温泉-朝食6:45-バス発7:15-大日峠登山道7:33-大日峠8:15-三十二番・法性寺8:42~9:10-赤平橋-赤倉橋-三十三番・菊水寺(昼食)10:57~12:00-番戸大橋-奈良川大橋-札立峠14:15-三十四番・水潜寺14:55~15:20-梁山泊(泊)

宿の「梁山泊」は、安価(8250-・税込み+150-・入湯税)だが、なかなか良い宿だった。料理は悪くない。温泉は24時間OK。カラオケは無料。部屋はやや狭いが、二人なら問題なかった。

料理の部屋出しもあり、夜は無料、朝は有料だった。(運転者は朝も無料)朝食は6:50予定だったが、「用意が出来た」で、早くやってくれた。随所に「温かみ」を感じる宿だった。引率者としてこんな有難いことはない。バスで昨日の最終地に移動。道がやや狭かったが、地元の方がアドバイスしてくれた。大日峠に向かって二日目が始まった。今日も好天。沢沿いに上っていく。台風の影響は少なかった。

皆さんは山道で嬉々としていた。やっぱり自然の道はいい。沢は静岡では見られない、「板状節理(ばんじょうせつり)」が続いた。沢を離れて大日峠に着いた。お地蔵さまが二体あった。Mさんが地蔵のうんちくを披露。

左は昭和年代、右は明治維新以前時代。なぜなら、右の地蔵は首が付け替えられている。それは明治維新後、神道を進める「廃仏毀釈」で首をはねられたからという。皆さん納得でした。



大日峠登山道



大日峠



柿ノ久保集落

峠から下り道になった。柿ノ久保集落に出た。山中に立派な家が点在していた。廃屋と思いきや、洗濯物が干してあった。更に下ると三十二番・法性寺（ほうしょうじ）着。立派な寺だった。





玄関わきの部屋に乳飲み子を抱えた若い女性がいた。本堂でお勤め。山上に「お船観音」と呼ばれる、200mの巨岩に奥の院がある。行ってみたかったが、今日は時間が厳しいので中止。境内で富士川町の方に会った。食道がんで長泉がんセンターに通っていたという。名刺を渡し後日、連絡を貰った。



札所三十二番・法性寺

富士川町の方は昨夜、同じ宿に泊まったという。しかし、大日峠を越えないで下道

を来たようだ。荷物を置いてあるので、再び宿に向かうといていた。

山を下る。すぐ下に「鵬谷 (なぶりや)」という変わった地名があった。余りいい意味でなかった。般若川から長留川沿いを下る。この辺りは川が複雑に交差していた。パトカーが一旦停止の取り締まりを行っていた。赤平橋手前でトイレ休憩。秩父に来て感じたのは、トイレが豊富で助かる。早朝でも使うことが出来た。先日の山中城跡とは随分違った。

対岸に行く。前を一人の方が歩いていた。聞けば定年になり札所巡りという。ただ、白衣はなくお勤めもしないといった。埼玉の方だったが、実は後で大変なことになるが、その時は分からなかった。再び奈倉橋を渡り三十三番・菊水寺着。ご朱印係の方は、いい感じの方だった。

寺で問題発生。先ほどの埼玉の方の態度がおかしい。聞けば、法性寺の下りで財布・カード・免許証を落としたという。単独で見ず知らずの所に来て何もできない。今から歩いて2時間のところを戻り探しに行くという。それは大変だ。余りに気の毒なので、バスを使い探しに行って貰った。

その間、我々は昼食とした。今日も天気が良く温かい。有難いことだ。昼食が終わるころ埼玉氏は帰って来たが結局、見つからなかった。彼は菊水寺の方に1万円借用し、引き続き水潜寺まで行くことになった。そこからは我々のバスで最寄りのバス停まで送ってやることにした。



札立峠

三十四番・水潜寺に向かう。秩父札所最後の寺である。しかし、最後に札立峠が立ちだかっている。四国もそうだった。八十八番札所・大窪寺には女体山を越えなければ着かない。伊豆も戸田峠がある。生みの苦しみ、最後の試練だった。

標高差は奈良川橋から約300m。まあ、四国に比べれば楽なものだ。(四国は約776m) 菊水寺から一部はバスの人となった。奈良川橋から林道をつめて、頼母沢上から山道に入った。ここでも入れ替わって一部、バスを利用した。山道は、やや暑かったが問題なく1時間ほどで札立峠着。昔は茶屋があったらしく廃屋があった。

あとは下りで水潜寺に向かう。途中、少し台風の影響があったが、特に問題はなし。小1時間ほど下って水潜寺着。これで三十四番札所は終了した。しかし、実はまだあった。「お礼参り」といって一番札所に戻る習わしがある。

それで本当の「願いが結ばれる」のである。三十四番でお終いだと、歩き(巡礼は)円(縁)で結ばれない。埼玉氏・また四国も最終寺で終わる方が少なくない。出来れば一番札所まで歩きたい。ここでMさんは、「百観音」を達成した。西国三十三ヶ所、坂東三十三ヶ所、秩父三十四ヶ所で「百観音」。

ただ、西国・坂東は距離が長く歩きは困難。Mさんはバス巡礼だった。またMさんは、札所御朱印が「千寺」になったという。金額は半端でなかった。埼玉氏を最寄りのバス停まで送った。



水潜寺でバンザ〜イ！！

3日目 11月7日(木・晴) 歩行日数=9日 距離=約18km

起床5:00-温泉-朝食6:45-バス発7:15-三十四番・水潜寺発8:22-根古屋-琴平下-大淵9:57-和銅大橋-法雲寺(昼食)11:19~12:02-一番・一番・四萬別寺12:40~13:12-大イチョウ14:00-ワイナリー14:30-梁山泊(泊)

今日も天気が良かった。バスで水潜寺着。日陰で寒い。琴平下まで下りなのでゲンゲン進む。下りきり荒川沿いを歩く。途中、大淵で地元のオジサンと交流。

和銅大橋まで田舎道をブラブラ進む。綺麗な美容院でトイレを借りた。和銅大橋の「和銅」は、元号の名称。秩父で発行された貨幣は、「和同開珎」で、「どう」の文字が違う。秩父線の黒谷駅も「和銅」である。先で昨日の埼玉氏から携帯。落とし物が交番に届いていたそうだ。ちなみに、礼状などは何もなかった。

荒川を渡り対岸を歩く。裏街道を進み、法雲寺という小さな寺で昼食にした。今日も風がなく暖かい。南西に武甲山が大きかった。今回の秩父巡礼は、いつもこの山を仰ぎ眺め歩いた。山裾をグルっと一周した感じがする。

午後は瑞岩寺前を通過し一番・四萬別寺着。三年前を思い出し懐かしかった。土産物屋を兼ねているご朱印係の方は温かい方だった。靴をぬいて本堂でお勤め。これで秩父山三十四観音札所が「結願・満願成就」であった。三年間、お疲れさまでした。無事に終了し皆様に感謝・感謝・深謝です。



法雲寺(昼食)



札所一番・四萬別寺

4日目 11月8日(金・晴) 歩行なし

起床5:00-温泉-朝食7:00-バス発8:30-雁坂トンネル-広瀬・コンニャク店-恵林寺9:55-御坂峠-御殿場・流れ鮭-長泉町15:30

最終日は、「朝寝・朝酒・朝湯」三昧だった。ゆっくり帰静。昨日、帰れないこともなかったが、年齢を重ね、慌ただしい旅はしたくない。

広瀬ダムのコンニャク店に寄った。出された、刺身コンニャクが美味しかった。紅葉が往時より進んだようだ。

塩山で恵林寺に寄った。300-で本堂などを見学。「うぐいす張り廊下」があった。キュキュキュと賑やか。圧巻は、恵林寺本堂でお勤め。

係りの方は、気持ちよく勧めてくれた。有難い。丁度、外国の方が本堂脇で「座禅」をやっていた。お経と座禅。そして紅葉。イイ雰囲気だった。境内の梢に山号の「乾徳山」が遠望できた。

昼食は御殿場・流れ鮭。1000-のランチで腹いっぱいだった。早く帰ったので、畑で一仕事した。今回もイイ旅だった。合掌。(了)



恵林寺

あとがき

なかなか、ようやく、遅ればせながら、で、やっと発刊のはこび。やろう、やろう、と思っていたが、なかなか出来なかった。

この手の本は、既に 2006年に「伊豆の里山・50山」（実際は、61山）・A4版・172p、2013年に「伊豆八十八札所巡礼」A4版・232pを出版している。本は今回で3冊目。

お遍路が終わったのが、2014年だから、いささか遅すぎた感は否めない。この手の仕事は、思い立ったら、一気呵成に進めることが肝要。

遅くなれば、記憶は薄れ、感動もなくなる。今回、その気になったのは、知人のS氏が、2016年から2020年のお遍路記録を纏め、小冊子を出したこと。後発の方に先を越され忸怩たる思いだった。

ま、それだけ歳を重ねたということか。目は悪くなり、気力も低下した。それでも、今回、全ての記録・写真を完璧に残してあったので編纂は、まあまあ楽だった。6年前のお遍路だったが、鮮明に一場面、一場面、思い出された。

出来れば、可能なら、「もう一度歩きたい」気持ちはなくはない。しかし、憧憬は憧憬で残すのもいいだろう。最後に多くの仲間・バス会社・家族に感謝致します。

後藤隆徳（ごとう たかのり）

1947/02/22三島市生まれ

18歳から本格的登山。

冬、日本ALPSの主な峰を全て登頂。また、山岳スキーも精通。日本オート・ルート、日本海オート・ルート、5月剣岳長次郎谷～頂上、剣岳一周など。海外は、モンブラン、ヒマラヤ・ヤラピーク、ヨーロッパ・オートルートなど。

巡礼は、伊豆・四国・御厨・秩父・小豆島まで。ほか、富士山一周ウオーキング、伊豆一周ウオーキング主宰。裾野麗峰山の会会長。

「四国八十八札所お遍路」

発行者 後藤隆徳

発行日 2020/10/01

印刷所 「プリントアース」

連絡先 静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12
090-8956-9990
055-986-6075

HP <http://susono-reihou.babyblue.jp/>
裾野麗峰山の会